



壮行会

6月16日(水)、明後日に行われる甲府市総合体育大会に向けて壮行会を行いました。例年は体育館で実施していますが、今年は感染症対策のため、校庭で実施しました。昨年は、全校で実施することができませんでしたが、今年は様々な工夫をして、実施にこぎつけました。当日は外ということで空模様を心配し、放送による実施も考えましたが、時間を変更して何とか行うことができました。



壮行会は、大変意味のある行事だと思っています。壮行会は新人戦と合わせて年2回行います。普段のジャージや制服ではないユニフォーム姿で、全校生徒の前に出るのはこの2回だけです。部活動は同じ時間で取り組んでいるため、互いの姿を見ることができません。仲間の教室での姿と違う姿を知る機会、お互いが頑張っていることを確認する大切な機会なのです。

そしてこの会には、本校が大切にしている「想い」があふれています。仲間を応援する生徒の想い、それに応えようと胸を張って堂々とした態度で入場する選手の想い、その時に流れる心のこもった演奏に吹奏楽部員の想いが耳に流れ、見上げれば屋上に取り付けられたきれいな青い看板に美術部員の想いが目に焼き付きます。各部の目標の垂れ幕は、見る人の想いを熱くし、決意表明での仲間や保護者の皆さん、顧問の先生方に感謝する言葉に、切なささえ生まれてきます。総体は負ければ引退ですが、「全員が、東中の部活動に戻ってきて欲しい。」心からそう想い、「待っています。」と伝えました。

3年生が「東中の応援を引き継ぐのは、私たちしかない。」よくそう言いますが、校庭の開放された環境で人と人の距離をとり、全校での応援も実施することができました。毎日、練習を積み重ねてきた応援委員でしたが、放送による実施となってはできないことでした。応援を行いたいと願う応援委員の想いと、何とか実施させてあげたいと願う生徒会本部や先生

方の想いが重なり実施できたのだと思います。

「想」から「創」へ。生徒会のスローガンが「総創」であるように、これが本校の今年のテーマです。ICT等ばかりに目が行きそうですが、アナログ的な手法やあらゆる可能性を探して、これからも教育活動を前に進めていきたいと想いました。



市総合体育大会

6月18日(金)、19日(土)、甲府市総合体育大会が行われました。無観客、開閉会式を行わないこと、対戦チームのみがそれぞれの時間で集合すること等、できる限りの感染症対策をしての実施でした。

総体は特別な大会です。総体だけが、関東、全国大会につながる大会です。昨年度は実施できなかった市総体。代替の県総体はできたものの、関東、全国を目指しながら、その権利すらもらうことができずに引退した先輩たちがいました。その「想い」も受けとめながら、実施できることに感謝の気持ちを忘れず、全力で試合に臨む東中生の姿は一段と輝いていました。

総体が特別な大会であるもうひとつの理由は、3年生にとって引退をかけた試合となるからです。この大会が終わると、部活動を続ける生徒と、活動をしない生徒に分かれます。どの部活動の場にも青色のジャージの生徒がいることが当たり前の光景だったのですが、そうではなくなります。レギュラーであるとかないとかは関係なく、目の前の試合に精一杯取り組む3年生一人ひとりが、この大会の主役でした。

全てが思い通りにはいきません。でも、その体験の一つひとつが貴重な経験で、今後の生活に役立たせていくべきものだと思います。勝つからではなく、「東中と言えば部活動」と言われる理由は、そこにあるのだと思っています。



1年生の成長「林間学校に行ってきました。」

『みどりのみんなで楽しみたい樹』をスローガンに掲げ、6月7日(月)、8日(火)、1年生が林間学校に行ってきました。場所は御殿場の「富士のさと 国立中央青少年交流の家」で、2年生と同じです。違っているのは、2年生が1年延期して実施したのに対して、例年通り1年生で実施できたことです。感染症対策で、野外炊事の実施を見送る等の工夫もしましたが、壮大な富士山を背景に、子供たちは精一杯活動に取り組んでいました。

1年生でこの行事を行うのには、スローガンにもあるように、これから生活していく学年の仲間で、みんなで楽しみ、みんなで成長することのできる集団をつくっていく意味が



あります。6月の実施ということもあり、時間を守った行動や、創造的なスタンス等、入学以来の成長を感じることができました。

今年の1年生の先生方には、昨年度の3年生を担当していた先生方も多くいますが、昨年の修学旅行の中止から、2年分の「想い」を込めた宿泊行事でもありました。子供たちと先生方が、「想い」をひとつにして活動する姿を見てうれしい気持ちになりました。